

太陽生命リース発足

変化の時代に対応 広範な事業展開へ

日本エルピーガスメーターリースと太陽生命リースが一日付で合併し、「太陽生命リース」（本社・東京、笠原壯史社長）がスタートした。昨年二月に太陽生命リースがメーターリースに資本参加して以来、一年間の準備期間を経て「より広範な業務の展開」を實踐するために生まれ変わった新会社だ。改正LPガス法時代が本格的に幕を開けたいま、消費者設備の改善、業務効率化や合理化のための設備投資など、販売業界が抱える課題は多い。「メーター類のリースに限らず、事業資金の融資も視野に入れた幅広い運営」（笠原社長）を目標とする太陽生命リースの今後の事業展開に、業界が寄せる期待は大きい。



笠原壯史社長

日本エルピーガスメーターリースは昭和四十一年の設立以来、LPガス業界唯一の専業リース会社とし

て安全保安機器の普及や消費者設備の改善促進などに大きな役割を果たしてきた。リース契約件数はすでに一万件を超えている。一昨年九月には、親会社であった日本リースの会社更生法申請によって思わぬ苦境に立たされたが、業界関係者の応援等もあり、太陽生命グループの全面的な

バックアップを得て「新生メーターリース」として再スタートを切った。今回の合併はその延長線上にあるもので、メーターリースを存続会社とし、リース業だけにとどまらず、「間口の広い事業運営」を本格的に進めていく上での体制整備だ。LPガス業界三十五年の

実績を誇るメーターリースのノウハウに、潤沢な資本力と一般リース業としての経験も豊富な太陽生命リースのノウハウがプラス、相乗効果によってもたらされる可能性は大きい。「これまでメーター中心のリース会社というイメージが強かったが、今後はLPガス業界のあらゆるニーズに対応していきたい」と笠原社長。普及に期待がかかる新バルク供給をはじめ、GHP、マイクロコージェネといった大型物件の扱いも強化する方針。

また、事業資金の融資も取り扱っていく。ニーズに合えば単独企業との業務提携も考えていく、という。LPガス業界を取り巻く周環境の変化にともない、次々と創出されつつある新たなニーズへの対応が、新会社「太陽生命リース」のテーマである。組織は「エルピーガス機器事業部」と「総合リース事業部」の二事業部制となるが、ユーザーのニーズによって柔軟な相互連係体制を取る。現有スタッフは基本的に変わらない。これまで通りに「現場優先主義」を貫いていくことも全社的に確認している。メーターリースに対する業界からの評価の高さは、単に専業のリース会社であるということだけではなく、個々の営業マンが地道な活動を展開し、時には元売や卸の担当者と共に、限なく現場を回ってきたことで信頼につながった、との認識からだ。今後も「現場優先主義」の姿勢は変わらない。笠原社長は「LPガス業界は現在、大きな変革期にある。業界のニーズも時代と共に変化していく」と認識している。業界に真に役立つリース会社として、もう一段の成長を目指している。